



笹子地区は15年4月にそれぞれ供用開始している。

## 小葉大本地区集排が供用開始、2日に通水式 県内初、1ネット利用の監視システムも稼働

＜栃木県小山市＞

栃木県小山市が10年度に事業採択を受け整備を進めてきた農業集落排水・小葉大本地区でこのほど汚水の受け入れ体制が整い、今日2日、同地区処理施設に関係者を集めて通水式を挙行するとともに、同日付けで供用開始の公示を行った。

同地区の事業規模は、計画人口1990人、戸数453戸、概算事業費18億6820万円。処理施設（JARUS-XⅣ型）は住友重機械工業・板橋組JVが一括で請け負い、13～14年度の2ヵ年で施工した。11年度に着工した管路施設（全長20.7km、中継ポンプ施設14ヵ所）についても、14年度中にすべての工事を終了。事業最終年次の今年度は処理機能調整工事を残すのみとなっており、並行して受益世帯の繋ぎ込みを促進して本稼働に移り、15年度末には接続率を一気に80～90%程度にまで引き上げたい考えだ。

2日の通水式には、大久保寿夫・小山市長や市幹部職員をはじめとする主催者や地元関係

者、工事関係者らに加え、市議会議長や県会・市会議員、県担当者（下都賀農業振興事務所）などの来賓を含め総勢54名が列席。事業経過報告や通水セレモニーなどに引き続き、出席者による記念撮影や処理施設内の案内なども行われた。

小山市の集排整備は、これまで計12地区の集排事業の採択を受けており、県内では最も多くの事業に取り組んでいる自治体として知られる。この小葉大本地区は市内10番目の供用開始箇所となるが、処理人口（1990人）は10地区の中でも最大規模。また、NTTドコモのDoPa網を活用した、iモード・インターネットによる遠隔監視システムを栃木県内で初めて導入した点も大きな特徴となっている。同地区で採用されたのは、この新世代タイプの監視システムとしては、全国の上下水道施設において群を抜く納入実績を有する(株)小松



来賓4氏による稼働スイッチ押下



小葉大本地区処理施設外観



処理施設内を見学する参加者



電機産業の「やくも水神」。処理施設の建屋内に監視制御装置「パッケージ水神」(写真)が、14ヵ所のマンホールポンプには新通信システムに対応する制御盤がそれぞれ配備され、供用開始とともに本格運用が始まった。

市では、すでに供用中の全9地区においてコルソスによる音声通報装置で運転監視を行うとともに、中河原地区(2年度採択)を除く8地区ではファックス通信機能による日報・月報管理を行うなど、施設管理の効率化に努めてきた。しかし、iモード・インターネットを活用した新システムでは、パソコンや携帯電話により、無線ネットワークを介して遠隔

地から迅速・的確に現場の状況を把握でき、緊急時には現場機器の遠隔操作も行えるなど、公衆回線などを利用した従来型よりもはるかに多様な機能を備えているほか、機器費、通信費などのコスト面でも削減が図れるなど、さまざまなメリットが期待できることから、小葉大本地区での初採用を決めた。また、同地区のシステムの運用状況をみながら、現在施工中の2地区(延島、福良)でも採用を前向きに検討したい、としている。

### 3番目集排・舟見野地区の来年度採択めざす 2700人規模 19年度一部供用開始目標

<富山県入善町>



処理施設管理棟に設置された監視制御装置

富山県入善町は、町の東に広がる14集落(舟見、今江、野中、中沢、西中など)を対象とした舟見野地区の農業集落排水整備を16年度に立ち上げたい考えで、同地区の新規事業採択をめざし現在、県担当部局との間でヒアリングを行うなどの準備を進めている。舟見野地区は町内3ヵ所目の農業集落排水計画で、計画処理人口は2700人(730戸)。予定どおり事